

全共斗運動の外延的發展を 獲得しよう

東京外語大学全共闘会談

本日の選挙暴走に驚嘆された多くの学生諸君、
我々東外大生全共闘会談は昨年九月二十日の対学生部長
二十日時間闘争を契機として、八百余に及ぶ選挙
闘争限下のイキガキ的に行い抜いてきた。外共斗争
は「〇憲規・負担区分を廃した新案の即時棄却」という
個別闘争人における改良的課題を抱えておこなうから、
大学当局、国家権力の理正に押しつけられながら、外大
の教育秩序全体に對する斗争に発展、深化してきてい
る。我々はこれまでの斗争の限界としてあつた〇憲規
・負担区分連連の個別棄却を絶つて終極化し、その一
層のデモクラシズムもつて大学当局に押しつけていく中
で、当局の方針に完全に屈されていくまいと、我
々から一歩問題を突き出し、管理運営権の全面的掌握、負
担区分撤廃、といふローカルの下に、それを実行する
ために新案棄却を掲げる。この方針を国家的に闘争して
いくことを進めてきたのである。〇憲規にもあつた三つの各々の
個別棄却並に負担区分撤廃を求めていく闘争は、たゞの
うちは把握し得ず、それらの闘争の目的を有機的連貫性
を有したものとすると、トータルに向進していくならば、我
は闘争進行しつつある教育の帝国主義的再編の一環として
〇憲規、負担区分を撤去しなければならないのである。
現在、日本帝国主義は七十年安保、中絶を中心軸と成
し、米帝との利害調整を行ひながら、日露条約、アムバ
ク、あるいはその他諸般諸國會議を主として、本格的
にアジア・太平洋圏争場への進出に乗り出した。六十年代
前半の高度成長政策はまさにそのこと日本の海外侵略を導
導するものとして必然的の過程であつたのだが、その中で
驚かされた日本の構造的脆弱性故に、国内のあらゆる産業
部中の閉鎖化を急がねばならなかつた。特に財政部門に
おける硬直化現象を乗りこらねばならぬという課題を抱え
て、あらゆる部面における人民の収奪が進行するものである。
それは公衆料金の値上げ、あるいは国家賠償値上げ（＝
賠償としてある交際費の巨額負担化）等々に現れてくる

この大衆収奪としてあらわれるが、教育過程において
は、漸削力闘争のためには資本家階級が大半を収奪する
資本が減少し、教育過程そのものが収奪の対象となつて
いく。それは諸大学における学費の値上げ、あるいは負
担区分の拡大として現れるのである。我々はそうした
資本の漸削と闘争する中で、例えば負担区分自体の持つ
ブルジョアイデオロギ（＝教育負担の漸削闘争）をも
同時に我々にかけられた攻撃の的として問題にし
なければならなかつた。すなわち、〇憲規、負担区分連
連がある程度貫徹している新案においては、そうした大
ブルジョアイデオロギと自分から担つて、然るで、つまじ
やかた「暴論」の漸削力闘争が大量に生産され、暴論は
アパートの「主人」として自分らの運命を決定してい
く。資本家階級はまさにそのおかげで、いかに暴論を進行
け、一歩で管理運営権を我々から奪ひ、それを一層閉鎖
化する。このようにして資本の漸削は進んでいくのだ。
したがって一切の暴論を退けていかなければならぬ。〇憲規、負担
区分は決して棄却し得るべきではないと主張してあるのは、東
外大の漸削力闘争の最高目標を掲げる現場＝東外大キナック
にたいする一層の進出の必要を主張してあることである。
我々は東外大における教育闘争、そしてそれ
を制度的に補完するあらゆる教育制度を分析する斗争を
進歩的階級闘争、国家権力再編階級闘争のローカ
ルの下に闘争して来た。だが、今、現在の諸闘争
争は、教育の帝国主義的再編の斗争として、もつと
個別課題を抱えておこなう必要があらわらぬ。その中で個別性の
枠内でのみ闘争を展開していくことは得ず、現在の
全共斗運動といつてもその外延的發展を確保していく中で
我々の斗争をより一歩突き進めたものとしていかに行か
ねばならぬ。現在の諸闘争争口として、せめて一足程度
切り崩さねばならぬ。全共斗運動に現れ出るものばかり
の改良的状態を望んでいる。個別は個別としてあるので
は、必ず連連の中の個別としてあることを確認して、二
の歩を進め、全共斗運動の外延的發展を確保しよう。